



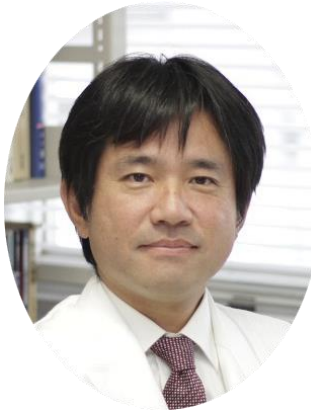
# Dai I NAIKA News

平成 26 年 11 月 12 日

三重大学病院  
総合内科、循環器内科  
消化器・肝臓内科、腎臓内科  
広報誌【第 14 号】

発行 / 三重大学医学部第一内科  
〒514-8507 津市江戸橋2-174  
TEL 059-231-5015 FAX 059-231-5201  
<http://www.medic.mie-u.ac.jp/naika1/index.html>

## ■ ごあいさつならびにお願い



山田典一

平素より三重大学医学部  
附属病院の診療にご理解・  
ご協力を賜り、厚く御礼申  
上げます。

8 月下旬に当院にて発生  
いたしました多剤耐性アシ  
ネトバクターの院内感染で  
は多大なるご迷惑ならびに  
ご心配をお掛けいたしまし  
た。一時期は当院での救急  
部・集中治療部の患者さん  
の受け入れを停止しており  
ましたので、救急患者さん

のご紹介をお断りさせていただくこともあったかもしれ  
ません。深くお詫び申し上げます。11 月 11 日現在、よ  
うやく院内の感染患者さんは 1 名のみとなり、通常通り  
とはいかないまでも循環器救急疾患には対応できるまで  
に復帰しております。

しかしながら、循環器内科の入院対象患者さんのうち、  
多くの重症例は、一旦、救急部・集中治療部への収容を  
経て、循環器内科の 10 階北病棟へ入院しております関係  
上、一時的とはいえ今回の救急患者さんの受け入れ停止

の影響を強く受け、循環器内科への入院患者さんが  
減少し、現在も稼働率の低い状態が持続しております。  
日頃よりお願いばかりで恐縮ですが、精査・加  
療を要する患者さんがおみえになりましたら、ぜ  
ひ、大学病院へご紹介いただきますようお願い申し  
上げます。今年の 10 月より循環器内科・腎臓内科・  
総合内科の病棟医長を村田智博（腎臓内科）、副病  
棟医長を中森史朗（循環器内科）が務めております。  
病棟主任へのホットラインは直接つながりますの  
で、患者さんや入院についてのご相談やお問い合わせ  
などございましたら、どうぞお気軽にご連絡くだ  
さい。

現在の病棟は、新臨床研修制度が導入されるまで  
の、研修医をはじめ多くの若手医師がひしめき合い  
活気があふれていた時代とは異なり、医局員が減少  
する中、皆一丸となって、学生や研修医への教育、  
地域医療への貢献、さらに臨床や研究に心血を注ぎ  
頑張っております。申し上げるまでもなく、三重大  
学医学部附属病院の診療は、皆様方から患者さん  
をご紹介いただくことで成り立っております。現状を  
ご理解いただき、何卒、ご協力を賜りますよう重ね  
てお願い申し上げます。

## ■ 循環器内科・腎臓内科 新病棟医長より

10 月から前任の澤井俊樹先生  
より引き継いで循環器腎臓内科  
病棟の病棟医長に就任いたしま  
した村田智博と申します。平成 11  
年卒業で前任の澤井先生とは同  
期です。平成 18 年に大学に戻  
ってからは腎臓内科医として日々  
精進しております。これまでの、  
私が研修医のころから病棟医長  
の先生は皆、人格者で医師とし  
ても尊敬される先生ばかりで、この大役が私に務まるかど  
うか心配ではございますが、一歩でも近づけるようにがんば  
りたいと思います。また腎臓内科であることで病床の大半を占める循環器内科の診療に支障を来さないようにサ  
ポート役として中森史朗先生に助けられながら日々邁  
進しております。



村田智博

伊藤正明病院長のもと、私たちが所属する 10 階北病棟  
は循環器内科の虚血グループ、心不全グループ、肺循環グ

ループ、不整脈グループおよび腎臓内科が診療に  
当たっております。また不明熱、二次性高血圧、  
各内科専門領域から外れるような症例を総合内科  
が担当しております。大学病院の研修医も新しい  
研修制度が開始されたころに比べると増えてきて  
おり、常時 2-3 人の研修医が私たちの病棟で研修  
を行っております。第一内科の伝統を引き継いで、  
若手医師への指導も循環器腎臓内科の枠を超えて  
熱心に行っております。三重の将来を担う、可能  
性のある若者たちのためにも今後も引き続きお気  
軽に患者様のご紹介をよろしくようお願い申し上げ  
ます。ご紹介いただきました患者様に関しましては  
誠心誠意診療にあたり、検査結果、治療経過を先  
生方にご報告申し上げるとともに今後の連携強化  
に努めてまいりたいと思います。至らぬ点もあり  
本ニュースをごらんの先生方にご迷惑をおかけす  
ることあるかと思いますが、これまで同様ご指  
導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

# ワンポイントレクチャー

## 心房細動カテーテルアブレーションの進歩



藤田 聡

1998年 Haïssaguerre らが、心房細動のトリガーとなる期外収縮をマッピングの結果、90%以上が肺静脈起源であることを明らかにしました (N Engl J Med. 1998;339:659-66.)。これにより心房細動のトリガーに対するアブレーションが試みられ、現在一般的に行われている拡大肺静脈隔離術へと発展を遂げました。従来の薬物療法に比し高い洞調律維持効果が得られ、かつ重篤な合併症である心原性脳塞栓の発症率低下も期待でき、現在も日々システム改良が進んでおります。特に3次元マッピングシステムの進歩は目覚ましく、3次元的に心腔内の解剖を構築し、頻脈中の回路が同定可能となりました。当院でも CARTO 3®システムを用いており、さらに当院ではこれに加え EP navigator®という透視画像に造影から再構築した心臓の立体構造を融合してカテーテル操作をリアルタイムにナビゲーションする機能を合わせて使用し、非常に安全かつ効率的に治療を行っております。さらには先端を冷却しながら通電を行うイリゲーション・カテーテルや心腔内超音波が導入され、最近では先端の接触圧を測定可能なアブレーションカテーテルが使用可能となりました。上記の流れを受け2012年に公表されたカテーテルアブレーションの適応と手技に関するガイドライン(JCS2012)では、薬物

治療抵抗性の有症候性発作性心房細動に対するカテーテルアブレーションが Class I 適応に、薬物治療抵抗性持続性心房細動、あるいは薬物治療が有効でも患者本人がアブレーションを希望する場合は Class IIa 適応となり適応拡大が図られています。上記の様にこの分野は日進月歩で治療・技術の改善が図られ、現在では上室性期外収縮を除いたほぼ全ての頻脈不整脈がカテーテルアブレーションの適応となってきています。当科においても年々その件数は増加しており、これもひとえに先生方からのご紹介の賜物と心から感謝申し上げる次第です。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

## Pickup

10月1日付で腎臓内科に赴任致しました鈴木康夫と申します。元々津市(旧久居市)在住で、三重大学を卒業し2年間大学で研修させていただきました。その後2年間済生会松阪総合病院で消化器内科、循環器内科、その後半年の間尾鷲総合病院で一般内科の研修をし、今回戻ってまいりました。



鈴木康夫

専門は腎臓、透析を勉強していく予定ですが、まだまだ病棟にも慣れておらず、勉強不足のところがありますが、精一杯頑張らせていただきますのでよろしくお願い致します。

## ～お知らせ～

●11月27日(木) ホテルグリーンパーク津 葵橋の間にて「第16回三重循環器・腎臓疾患と糖尿病を考える会を開催いたします。」

詳細は第一内科 Face Book に掲載します。

●第一内科外来担当がリニューアルされました。(11月～)

		月	火	水	木	金
総合	初診	山田 岡本 山本	後藤	石川 田辺 荻原	藤井 杉本(和)	森脇 谷村
	初診	山田 岡本 佐藤	藤田 後藤	田辺 荻原	藤井 熊谷 武内	谷村 森脇
循環器	再診	藤本(直),増田 中森/土肥 PM 外来 香川	杉浦(英)	岡本	澤井 松田	山田 藤井 土肥
腎臓	初診	藤本(美)	休診	石川	村田	伊藤(貴)
	再診	石川	休診	休診	休診	村田
消化器・肝臓	初診	山本			白木	
	再診	白木 杉本(和) 小倉		山本	杉本(和)	

注) 不整脈に対するカテーテルアブレーション治療目的で御紹介いただく場合は、可能な限り火、木曜日の外来(担当: 藤田、藤井)に御紹介をよろしくお願い申し上げます。  
PM 外来=ペースメーカー外来(1,2,3週のみ)

●第一内科ホームページ

<http://www.medic.mie-u.ac.jp/intmed1/>

●ドクターたちのひとりごとブログ「第一内科 Café」

<http://ameblo.jp/miedailnai/>

●三重大学病院循環器内科、腎臓内科

～患者様をご紹介ください～

1 FAX 新患予約

「診療予約申込書」(三重大学医学部附属病ホームページ <http://www.hosp.mie-u.ac.jp> の「医療機関の方へ」からダウンロード可)に必要事項を御記入の上、FAX059-231-5541 に送信してください。15分以内に折り返しFAXで診療予約の回答をさせていただきます。

2 緊急受診、ご相談等

下記、循環器内科、腎臓内科救急ホットラインへ直接お電話下さい。病棟主任が直接対応させていただきます。

### 循環器内科、腎臓内科救急ホットライン

三重大学病院循環器内科、腎臓内科連絡先(直通)  
内科外来: 059-231-5146 病棟: 059-231-5101  
FAX: 059-231-5518 研究棟: 059-231-5015  
患者様の紹介、相談にご活用ください。

本機関誌に関するご意見、ご質問は下記メールアドレス、または当科HPまで。  
[naika1@clin.medic.mie-u.ac.jp](mailto:naika1@clin.medic.mie-u.ac.jp)

